

平成26年度 第1回 硬組織疾患ゲノムセンターセミナー

硬組織疾患ゲノムセンターの連絡会議に併設して、内外の研究者をお招きしてご講演いただく「硬組織疾患ゲノムセンターセミナー」を開催しています。今年度第1回は、新たに硬組織疾患ゲノムセンターにご所属下します上園将慶先生と森田淳平先生に、ご挨拶とご研究の発表をお願いしております。ぜひご来聴下さい。

日時： 平成26年6月24日（火）18時00分～19時10分

場所： MDタワー23階 共用セミナー室2

演題1：迅速に骨接合する歯科矯正用骨膜下アンカレッジデバイスの開発

講師： 上園将慶先生（硬組織疾患ゲノムセンター未来医療展開部門特任助教）

概要： 歯科矯正用アンカースクリューでは歯根損傷が問題となっている。この問題を解決するため骨膜下デバイスが開発され、国外では臨床応用されているが、デバイスと骨がアンキローシスし荷重できるようになるまで長期間を要するという欠点がある。今回われわれは骨膜下デバイスの最適化な表面性状についてラットを用いた動物実験で検討したので報告する。

演題2：アペール型変異(S252W)を伴う可溶型FGFR2はアペール症候群モデルマウスの頭蓋冠早期癒合症の発症を抑制する

講師： 森田淳平先生（硬組織疾患ゲノムセンター未来医療展開部門特任助教）

概要： アペール症候群（AS）は、頭蓋冠冠状縫合部の早期癒合、中顔面部の劣成長、重度の不正咬合、四肢の合指症を主徴とする疾患である。ASの原因としてFGFR2におけるアミノ酸置換（S252WまたはP253R）が報告されており、この変異はリガンド依存性の機能獲得型変異で、FGF/FGFRシグナルの異常亢進を起こす。当分野ではASに対する新規治療法として可溶型FGFR2の可能性に注目してきた。本講演ではS252W変異を伴う可溶型FGFR2がアペール症候群モデルマウスに及ぼす効果を紹介する。

連絡先：硬組織疾患ゲノム構造解析部門（分子細胞遺伝） 林 深（内線 5821）